

## (西海パールシーセンター発のニュース)



2005年11月21日(月)、佐世保市の西海パールシーセンター水族館に、九十九島で底引き網にかかった巨大なカブトガニが寄贈されました。この日本一大きなカブトガニは、2005年12月現在、西海パールシーセンター水族館で見ることができます。



--- データ ---

性別：メス  
 全長：約80cm  
 体長：約40cm  
 甲幅：約35cm  
 重さ：5.0kg  
 捕獲日：2005年11月19日  
 捕獲場所：九十九島内浅子沖  
 (底引き網)

注) ペットボトルは500mlではありません。2Lです。

写真提供：佐世保パールシーセンター

----- 以上、西海パールシーセンターからの情報でした。-----

----- 以下、このページ担当者のコメントです。-----

岡山県の笠岡市立カブトガニ博物館が国内で確認している最大個体は、全長約63cm・重さ約3.5kgだそうです(11月22日付け毎日新聞より)。しかし今回の個体は、何と!**80cm**です。これは間違いなく**日本一**の大きさです。**世界一の可能性**も十分あるのではないのでしょうか。

これまで、カブトガニと言えば瀬戸内海と九州北部(北九州、伊万里)が有名だったのですが、実は長崎県にもカブトガニの生息地はたくさんあります。長崎県のカブトガニ産卵地は、入り組んだ海岸線の場所にある事が多いため、北九州の曾根や伊万里に比べると面積的には小さいのですが、まだ未調査の場所も含めてたくさんの産卵地があります。

近年、佐世保パールシーセンター水族館の研究により、九十九島地区のカブトガニが、他地域のカブトガニよりも一般的に大きいらしい事が徐々に分りつつあります。今回発見されたこの超巨大カブトガニだけでなく、九十九島地区では実は65cm位のカブトガニは珍しくありませんし、まれに70cmの個体が見つかる事もあるのです。カブトガニの「日本最大の生息地」は、伊万里もしくは北九州の曾根干潟と言えそうですが、「日本最大のカブトガニ」が住むのは、どうやら長崎県のようなのです。

長崎県は、『**日本最後かもしれないカブトガニの楽園**』(長崎県自然保護協会編(1995)“水辺へようこそ—長崎県の水と動物—”)なのです。

なぜ、九十九島地区のカブトガニは大きいのでしょうか?九十九島の環境がカブトガニに合っているのでしょうか?中国大陸のカブトガニ(日本のものと同種)は、日本のものよりも大きいと言われていますが、九十九島のカブトガニよりも大きいのでしょうか?・・・興味は尽きません。

一般に親(成体)になる前のカブトガニは、甲羅の幅で年齢を査定します。カブトガニは脱皮のたびに約1.3倍ずつ大

きくなっていくからです。しかし、こんな大きな個体がいるとなると、年齢査定の基準にも例外が出てきそうです。

笠岡市カブトガニ博物館が確認している最大個体の約63cmに1.3を掛けると・・・約82cm。今回見つかった個体の大きさに極めて近くなります。もしかして、カブトガニは親になってからも脱皮している、なんて事はないでしょうか???・・・興味は尽きません。

(以上、2005年11月22日)

## 気になったので、ち↓よっと調べてみました

上に、“これは間違いなく日本一の大きさです”などと、気軽に書いたのですが、実は結構アヤウかったという事が判明しました^\_^;)。何と！過去に全長76cmのカブトガニが過去に記録されていたのです！もちろん日本産、しかも長崎県産の可能性が大です。この76cmカブトガニは、標本が残されているので、間違いなく確実な記録です。この標本は現在オランダの国立ライデン自然史博物館にあります。ライデンといえば・・・スルドイ人はもうお気づきですね。そう、シーボルトが長崎からオランダに持って帰った標本の中に、76cmのカブトガニがあるのですよ！この標本はライデン自然史博物館の標本番号RMNH 35（以上、日本甲殻類学会刊、山口隆男編『シーボルトと日本の博物学 甲殻類』より）。

正確に言うなら、シーボルトが収集したのか、それともシーボルトの後任として出島に赴任したビュルゲルが収集したのかは、よく分かりません。シーボルトが最初に動物標本を出島からオランダに送ったのが1826年、後任のビュルゲルが最後に標本を送ったのが1834年。よって、今もライデンに残る76cmカブトガニは、1826年から1834年の間に出島を出航したことになります。この間に出島からオランダに送られたカブトガニ標本の数は、実に82個体以上。シーボルトらは、かなりの数のカブトガニをオランダに送っていた事が分かります。ヨーロッパにカブトガニはいませんので、カブトガニはシーボルトらの興味を引いたのでしょう。

んで、またスナメリと同じネタになるんですが、これらのカブトガニの産地が気になりませんか？残念ながら、標本のラベルには産地が“Japan”としか書かれていません。しかしですね・・・シーボルトらが出島で標本を集めていたとなると、シーボルトのカブトガニは大村湾産の可能性が十分にあると思うのです。おそらく江戸時代の大村湾には、カブトガニの生息地がたくさんあったことでしょう。

シーボルトのスナメリやカブトガニの産地はどこなのでしょう？非常に興味のあるところですが、これを調べるには、当時シーボルトやビュルゲルがどのようにして標本を集めていたのか？などを調べる必要がありそうです。彼らには日本人の弟子も多くいましたから、そちらの方面の資料から何か出てくる可能性もあります。

いずれにしても長崎県産である事は間違いのないと思うのですが、誰か詳しく調べてみませんか？・・・っと、まあそれは置いて。

今回九十九島で見つかった巨大カブトガニ、あまりにデカイんで、もしかしたらクワガタみたいに大型の外国産カブトガニを誰かが持ち込んで、こっそり九十九島の海に逃がしたんじゃないの・・・？なんて事も少しは考えなくもなかったのですが^\_^;)、江戸末期に76cmのカブトガニが（おそらくは長崎県で）見つかったという事実が明らかになりました。長崎県には極めて少数ながらも、このクラスの巨大カブトガニが昔から生息していたようです。

ちなみにこのシーボルトのカブトガニ、全長は76cmですが甲幅が38cmだそうです。全長では九十九島が勝っていますが、甲幅では負けてますね・・・。重さはどうだったのでしょうか？興味があります。

さらに、上記『シーボルトと日本の博物学 甲殻類』によると、筑波大学には甲幅39.3cmの北ボルネオ産カブトガニの標本があるそうです。こちらの全長も知りたいところです。

大型のカブトガニに関する情報をお持ちの方がおられましたら、ぜひ情報をお願いいたします。

(以上、2005年12月6日)

## やっぱり気になるんで、さ↓らに調べてみました

日本のカブトガニについて調べる場合は、以下の3つの文献が非常に良くまとまっているので重宝します。

- 1) 西井弘之（編）（1975）カブトガニ事典（増補版） 個人出版、岡山
- 2) 関口晃一（編）（1993）日本カブトガニの現況（増補版） 日本カブトガニを守る会、岡山
- 3) 関口晃一（編）（1999）カブトガニの生物学（増補版） 制作同人社、東京

いずれも長崎県のカブトガニについてはほとんど触れられていないのが残念なのですが、上記3)の中に見つけました！北ボルネオ産のカブトガニ標本で全長85cmのものがあるとの事。この85cmカブトガニはボルネオ産ですが、種と

しては日本のカブトガニと同じ、標準和名で言うところの「カブトガニ」（学名*Tachypleus tridentatus*）です。おそらく上に書いた甲幅39.3cmのカブトガニと同じ標本と思われます。

というわけで・・・今回の九十九島の巨大カブトガニは“世界一”にはなれませんでした。今のところ“日本一”は間違いなさそうです。それに何と言っても生きてるしね！（もう1回脱皮して全長1mとかになってくれないかなあ・・・<sup>^\_^</sup>）

それはそうと上記の3文献、長崎県における最近のカブトガニの知見も加えて、そろそろ改訂版を出してあげませんかねえ<sup>^\_^</sup>

\* 上記文献のうち1)、3)については現在絶版。2)のみ[岡山県笠岡市立カブトガニ博物館](#)で購入可能のようです。

(以上、2005年12月28日)